



画像：北大路魯山人「色絵糸巻文角皿」1950年 吉田耕三コレクション

かつて茅ヶ崎に居住した美術評論家・吉田耕三（1915-2013）の陶磁器コレクションの中から、北大路魯山人（1883-1959）を中心とした陶芸家の作品約80点を初めて大規模に公開いたします。

吉田耕三は義父である速水御舟（1894-1935）から絵画を、魯山人や小山富士夫（1900-1975）などからやきものの薫陶を受け、東京国立近代美術館開館初期の研究員として長く活躍しました。美術館では展覧会に携わる一方、若手工芸作家の発掘にも熱心だったことで知られています。研究者・収集家として、ときには自らも作陶し、絵も嗜んでいた吉田ならではの視線で手元に置かれたコレクションは、その多くが日常に用いられる器でした。

美食家として知られる魯山人は食べ物にふさわしい器の作陶を試みて研究を重ね、独自の世界観を持った唯一無二の作品を制作してきました。古陶を下地としながらも、自由かつ豊かな発想で生み出された器は見る人を虜にさせます。また、吉田が定年前の最後に回顧展を担当した濱田庄司（1894-1978）や、伝統的な益子焼にオリジナリティあふれるモダンデザインを取り入れた加守田章二（1933-1983）など、コレクションは魅力的な作品群にあふれています。日々の暮らしで用いられ、食卓を彩った器の数々をどうぞお楽しみください。

【本展に関するお問い合わせ先】

茅ヶ崎市美術館 担当：小澤 由季（学芸員） 広報担当：齋藤久恵

TEL：0467-88-1177 FAX：0467-88-1201 E-mail：bijutsukan@chigasaki-arts.jp

本展のみどころ

① 本邦初公開！知られざる吉田コレクション

本展は吉田コレクションをまとまった形でご覧いただける初めての機会です。あわせて、吉田の視線を体験いただくために、作品が保管されていた箱も展示します。この箱は吉田自身が作品の図像を描いたオリジナルであり、研究者・表現者・コレクターであった吉田のまなざしを体感いただける貴重な資料です。

② 約 50 点もの北大路魯山人作品を一挙公開！

コレクションの核となる魯山人と吉田耕三は、かつて師弟関係にありました。吉田は茅ヶ崎から北鎌倉の魯山人邸に通って作陶の助手を務め、美術館に研究員として就職後は陶芸家・研究者へ魯山人との関係性が変化しています。魯山人を「近代稀な芸術家」と評し、その傍らで作品を見つめ続けた吉田によって収集された作品をお楽しみください。

③ 作家の発掘に尽力した吉田の目利きをご覧あれ

吉田は作家の発掘をライフワークとし、作品の購入や推薦文の執筆、公募展の審査員などを通じて多くの若手作家を世に広めていきました。自宅には駆け出しの作陶家や研究者を招き、自身のコレクションを用いて盛んに勉強会を行っていたといえます。コレクションの中から、吉田と交流のあった作陶家の作品も多数展示します。

出品作家（五十音順）

あらかわとよぞう えざき いっせい かねしげとうよう か も だ しゅうじ きたおおじ ろさんじん こやま ふ じ お しみずういち はまだしょうじ ふくしまぜんぞう もりとうがく
荒川豊蔵、江崎一生、金重陶陽、加守田章二、北大路魯山人、小山富士夫、清水卯一、濱田庄司、福島善三、森陶岳

展示構成

I. 卓を彩る、日常の器－吉田耕三の眼

北大路魯山人を筆頭に金重陶陽や濱田庄司、加守田章二など吉田自身が交流を重ねた作家の作品の中から座敷に飾る花生や小さな食器を紹介するとともに、吉田と作家の関係性を明らかにしていきます。

II. 食を飾る、彩りの器－魯山人の食器

かつて師弟関係にあった魯山人を「近代稀な芸術家」と評した吉田ならではの目線で集められた作品を紹介します。織部や志野など古陶を下地としながらもバラエティに富んだ魯山人の多様な表現に注目です。

吉田耕三（1915-2013）

美術評論家。幼少期はのちに義父となる速水御舟から絵画を学び、東京美術学校日本画科を卒業するも、戦後はやきものに転向し、小山富士夫の紹介で荒川豊蔵、川喜田半泥子、北大路魯山人の元で修業。茅ヶ崎に住居を構えた後、東京国立近代美術館開館初期研究員として工芸・日本画を担当し、数々の展覧会を企画するとともに多くの執筆活動を展開。若手作家の発掘に尽力し、日本伝統工芸展、日本陶芸展などの公募展審査員としても活躍した。

【本展に関するお問い合わせ先】

茅ヶ崎市美術館 担当：小澤 由季（学芸員） 広報担当：齋藤久恵

TEL：0467-88-1177 FAX：0467-88-1201 E-mail：bijutsukan@chigasaki-arts.jp

関連イベント

【対談1】うつわを集める楽しみ、みる楽しみ

講師：荒川 正明（本展監修者、学習院大学教授）× 黒田 耕治（しぶや黒田陶苑）

日時：6月22日[日] 14時～15時30分 会場：松籟庵（高砂緑地内）

料金：1,000円（お菓子つき） 定員：15名

申込：事前申込制、先着順 ※6月1日[日] 10時より電話または美術館受付にて開館時間内にお申込みください。

【対談2】うつわを愛した吉田の素顔

講師：野田 秀恵（吉田耕三の弟子）× 小川 稔（当館館長）

日時：6月28日[土] 14時～15時 会場：当館エントランスホール

料金：無料 定員：50名（事前申込不要）

キュレータートーク

日時：7月12日[土]、8月10日[日] 各日14時～14時50分

会場：美術館展示室 担当：小澤 由季（本展担当学芸員） 料金：無料（要観覧券/事前申込不要）

【先生向け】文化芸術教育プログラム

先生のためのプログラムを実施します。美術館訪問や鑑賞授業のヒントにご活用ください。

対象：保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学教員、学童スタッフの皆様

1. 先生応援ギャラリーツアー

講師：荒川 正明（本展監修者、学習院大学教授）

森谷 美保（東京工芸大学教授）

日時：8月23日[土] 14時～16時 会場：展示室、2階アトリエ

料金：無料 定員：10名（事前申込制、先着順）

2. 先生たちのための10日間

子どもたちとともに過ごす先生たちを、美術館の展覧会にご招待。美術館で開催される展覧会の最初の約10日間、無料で鑑賞していただけます。様々な切り口で開催される茅ヶ崎市美術館の展覧会の魅力を体感していただき、児童・生徒との会話にご活用ください。

夏の期間：6月17日（火）－6月29日（日）

※ご所属が分かるものを受付にて提示（例：職員証、名刺等）。期間は休館日を除く

【本展に関するお問い合わせ先】

茅ヶ崎市美術館 担当：小澤 由季（学芸員） 広報担当：齋藤久恵

TEL：0467-88-1177 FAX：0467-88-1201 E-mail：bijutsukan@chigasaki-arts.jp

広報用画像

画像の使用をご希望の場合は、E-mail にて広報(齋藤)までお問い合わせください。

E-mail : bijutsukan@chigasaki-arts.jp

【広報用画像貸出の注意事項】

- ・使用目的は、本展のご紹介のみに限ります。
- ・使用後、画像データは速やかに破棄してください。画像データの保存および、第三者への提供は禁止します。
- ・トリミング、部分使用、文字乗せ、色調変更、二次使用は禁止します。
- ・掲載する際は、各画像のキャプションを必ず記載してください(下記参照)。所蔵はすべて吉田耕三コレクションです。
- ・掲載紙は、広報宛に1部ご送付をお願いします。

【その他注意事項】

- ・「吉田耕三」の「吉」は土のしたに口(新字)です。

1



北大路魯山人「織部櫛目汁注」1950年
吉田耕三コレクション

2



北大路魯山人「黄瀬戸菖蒲文四方隅切皿」1951年頃
吉田耕三コレクション

3



北大路魯山人「鉄絵蟹文皿」1959年
吉田耕三コレクション

4



北大路魯山人「金銀彩武蔵野文鉢」1951年
吉田耕三コレクション

5



北大路魯山人「色絵銀彩折紙手向付」1951年
吉田耕三コレクション

6



加守田章二「灰釉大皿」1965年頃
吉田耕三コレクション

7



加守田章二「灰釉流花器」1967年頃
吉田耕三コレクション
*高砂緑地内「松籟庵」にて撮影

8



「黄瀬戸菖蒲文四方隅切皿」1951年頃/「鉄絵草文小皿」1949年/「鉄絵都鳥形箸置」1950年頃
作品は全て北大路魯山人
*所蔵は全て吉田耕三コレクション
*高砂緑地内「松籟庵」にて撮影

9



北大路魯山人「染付辰砂葡萄文紅茶碗皿」昭和時代/北大路魯山人「鉄絵銀彩紅葉文皿」1953年/江崎一生「古常滑写灰釉小壺」昭和時代
*所蔵は全て吉田耕三コレクション
*高砂緑地内「松籟庵」にて撮影